

(3) - 5) E 事業所事例

特徴：事業所の進出に際し、地域の自治会との自治会協定で定例会を開始した例。

この事業所は企業用地取得を含めて比較的新しく進出したこともあり、地域住民の理解を得る上で、地元自治会との協定という形で事業所の環境保全を含めた定例の場を開始した。地域住民からは自治会執行部の他、複数の環境対策委員も参画しており化学物質を取り扱う事業所の進出での地元の懸念は当初あった。しかし、経年して事業所の拡張計画があった際に事前調整がうまくいったことがメリットととして挙げられたのはこの定例の場が継続して行われ、事業所のリスク情報の開示姿勢、協定値の遵守、意見交換や更に地域の声を聞く姿勢や日常のコミュニケーション（双方向の交流）の積み重ねにより信頼を醸成してきている成果である。また、本社機能が地域住民とのリスクコミュニケーションの訓練等を支援していることも重要である。

従業員規模 : 500人以上。

周囲の状況(立地): 単独事業所。第一次産業、住居。

操業経過年数 : 25年以内。

PRTR 取扱最大量の物質: 年間1,000トン以内のPRTR対象物質の取り扱い有り。

環境・安全等のマネジメントシステムの有無: 有り。

- 1 対話開始時期: 平成4年から開始した。
- 2 きっかけ: 事業所進出に際し、地元自治会との自治会協定の付帯事項として環境について説明する場を設けることになった。
- 3 名称の有無: 有り

対話の場の位置付け : 地域住民に事業所のリスク情報を開示し意見交換することで相互理解領域の拡大を図る。

- 1 事業所側出席者 : 事業所長、環境安全、総務、施設。
- 2 地域住民側出席者: 自治会執行部、環境対策委員会委員
- 3 その他出席者 : 無し。

- 1 事業所が地域住民と認識する範囲: 約100世帯弱
- 2 事業所の所在地の最小行政の範囲: 町で約200世帯弱

実施方法: 開催月を決めている。

- 1 頻度: 年に1回
- 2 場所: 事業所の会議室
- 3 時期: 参加者が出席し易い時期に設定
- 4 日時: 平日昼間
- 5 議題: 事業概要および動向、環境安全の取り組み等(環境測定データの開示)

化学物質情報提供の工夫: 環境測定データと協定値(上乘せ基準)の遵守状況を説明。

対話の場のメリット: 拡張工事での事前調整がうまくいった。地域行事や事業所行事への相互参加の話し。地域とのコミュニケーションが増幅。

対話の場の難点 : 特に無し。(経年して住民の声が少なくなっている。)

住民の声 : 環境の取り組みから地域雇用まで自由に意見を言える場である。

改善への課題 : よりわかり易い資料として、サイト環境報告書の作成。